

開成館と「三傑會合之地」

■ 東九反田公園 史跡案内 弐 ■

幕末激動期の慶応2年、山内容堂の後ろ盾を得た後藤象二郎が中心となり、土佐藩の殖産興業・富国強兵を進めるため、開成館を設立しました。

開成館は、軍艦局・貨殖局・勸業局・火薬局・医局・訳局、大阪・長崎出張所（土佐商会）等を設置し、専売品の売りさばき、艦船・銃砲の輸入などをおこない、土佐藩の産業・軍事力の向上や、技術教育・翻訳など西洋文明の導入に成果をあげました。これらの活動には中浜万次郎・細川潤次郎・岩崎弥太郎らが参画しています。

明治3年、開成館は^{いんひんかん}賓賓館と改称され、外来客を接待するために使われました。

翌年、維新三傑の西郷隆盛・木戸孝允・大久保利通を迎えて、板垣退助・福岡孝弟との薩長土首脳会谈がおこなわれ、三藩から朝廷へ御親兵（のちの近衛兵）を献上するという維新史上の重要な政策を決定しています。



「旅行必携 新撰高知市街地図」(明治26年) 開成館は城下町の海の玄関に設立された



開成館本館の建物(明治10年代) 土佐の近代化と自由民権運動を象徴する歴史的建造物であった